

いわき市総合防災訓練において小型モビリティを用いた津波避難訓練を行いました (2025/11/15)

テーマ：小型モビリティ、津波避難訓練

会場：いわき市勿来地区 錦中学校

URL：<https://www.city.iwaki.lg.jp/www/contents/1760410569379/index.html>

2025（令和7）年11月15日（土）のいわき市総合防災訓練において、東北大学災害科学国際研究所との「防災に掛かる連携と協力に関する協定」に基づき、柴山明寛准教授（災害文化アーカイブ研究分野）、齋藤玲助教（認知科学研究分野・情報科学研究科）、鎌田特任教授（地震津波リスク評価（東京海上日動）寄附研究部門）が防災訓練の実施を支援しました。

今回の訓練は、茨城県沖を震源とするマグニチュード8.4の地震が発生し、沿岸部に大津波警報が発令という想定で行われ、1,524人（うち市民884人）が参加しました。

このうち同市勿来地区、いわき市立錦中学校において、我々は、トヨタ自動車の協力を得て電動小型モビリティ（最高時速6kmで走行・電動車いす扱い）を3台用意し、防災訓練の参加者が試乗して、災害時・中・後の活用に関する聞き取りを行いました。電動小型モビリティは、操作が簡単で安全性のための配慮がさまざまになされており、運転免許が不要でヘルメット着用義務もなく、自動車の運転免許自主返納後や、歩くのが辛くなった方々の買い物・通院時などでの普段使いを便利にし、外出を促します。今後、このような電動小型モビリティが社会に普及していくなかで、その災害時の利用、さらには災害後の復旧・復興時の利活用について検討することは極めて重要であり、今後も検討を続けていく必要があります。

本訓練では、電動小型モビリティの利活用に関する検討に加えて、FC（水素による燃料電池）自動車「MIRAI」による給電のデモンストレーションが併せて行われ、災害で停電した場合の避難所の環境改善の可能性についても検討されました。最後に、本訓練の同会場では、発災後の健康二次被害を防ぐために、ラッキィ池田氏が振付をした「ケロロワット体操」が披露され、参加したいわき市長や市民のみなさんと一緒に実演されていました（https://youtu.be/iZHRR9cLNAo?si=crV_TwTHlidludnQ）。

「逃げ遅れゼロ」「災害死ゼロ」を目指して取り組んでいるいわき市を当研究所では今後も継続して支援していきます。



電動小型モビリティの操作の説明の様子 於 勿来地区・いわき市立錦中学校